第 25 回豊川市地域公共交通会議議事録

- 1 日 時：平成 27 年 6 月 9 日（火） 13：30～15：30
- 2 場 所：豊川市勤労福祉会館 視聴覚室
- 3 出席者：渥美 昌之 委員（豊川市健康福祉部 鈴木 信弘 代理出席）
伊藤 充宏 委員（豊川市市民部 森下 智雄 代理出席）
小久保 信 委員（愛知県振興部 浅田 裕人 代理出席）
長縄 則之 委員（豊鉄バス株式会社）
小川 健司 委員（豊鉄タクシー株式会社）
古田 寛 委員（社団法人愛知県バス協会 伊藤 晴夫 代理出席）
鈴木 榮一 委員（愛知県タクシー協会豊川蒲郡支部 鈴木 香野 代理出席）
戸苅 敏雄 委員（豊川市連区長会）
加藤 俊英 委員（一宮地区区長会）
渡辺 晴美 委員（音羽連区）
大桑 西久 委員（御津連区）
柴田 廣章 委員（小坂井連区）
川上 陽子 委員（豊川市老人クラブ連合会）
伊奈 克美 委員（（特非）とよかわ子育てネット）
中野 瑛紀子 委員（こすもすの会）
白木 広治 委員（中部運輸局愛知運輸支局）
長坂 和俊 委員（愛知県交通運輸産業労働組合協議会 菰田 昌浩 代理出席）
岩田 明 委員（中部地方整備局名古屋国道事務所）
杉浦 政晴 委員（愛知県東三河建設事務所）
荘田 慶一 委員（豊川市建設部 鈴木 高 代理出席）
小久保 浩 委員（愛知県豊川警察署）
伊豆原 浩二 委員（愛知工業大学客員教授）
廣島 康裕 委員（豊橋技術科学大学客員教授）
- 4 欠席者：山脇 実 委員（豊川市長）
- 5 事務局：鈴木課長・吉田課長補佐・小木曾係長・須藤主任・橋爪主任（人権交通防犯課）
- 6 傍聴者：8名
- 7 次 第
 - (1) 報告事項
議題 1：平成 27 年 4 月までの豊川市コミュニティバスの運行実績
議題 2：平成 26 年度決算書報告
議題 3：平成 27 年度の協議会スケジュール
 - (2) 協議事項
議題 1：基幹路線の運行計画の変更
議題 2：生活交通確保維持改善計画
議題 3：豊川市地域公共交通総合連携計画の見直しについて
議題 4：利用促進に関する取り組み
 - (3) その他

8 議事内容

事務局： 本日は、皆様方におかれましては、大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議には、傍聴を希望される方がお見えになられております。今回の議題の内容をみましても傍聴は、差し支えないと思われしますので、今回の会議は公開とさせていただきます。ご了承の程お願いいたします。

次に、委員名簿につきましては、お手元に資料として配布させていただいているとおりです。また、本日は、愛知県バス協会の 古田 寛（ふるた ひろし）委員の代理として、伊藤 晴夫（いとう はるお）さま、愛知県タクシー協会の鈴木 榮一（すずき えいいち）委員の代理として、鈴木 香野（すずき よしの）さま、愛知県交通運輸産業労働組合協議会の長坂 和俊（ながさか かずとし）委員の代理として、菰田 昌浩（こもだ まさひろ）さま、豊川市健康福祉部の渥美 昌之（あつみ まさゆき）委員の代理として、鈴木 信弘（すずき のぶひろ）さま、豊川市建設部の庄田 慶一（しょうだ けいいち）委員の代理として、鈴木 高（すずき たかし）さま、豊川市市民部の伊藤 充宏（いとう みつひろ）委員の代理として、森下 智雄（もりした としお）さまにご出席いただいておりますので、ご報告させていただきます。なお、豊川市の山脇市長においては、本日は、他の公務のため欠席させていただいておりますので、ご了承の程お願いいたします。

次に、座長と副座長でございますが、事務局としましては、円滑な会議運営のため、昨年度に引き続き、座長を学識経験者の伊豆原先生、副座長を同じく学識経験者の廣島先生にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

（異議なしの声あり）

事務局： ありがとうございます。では、昨年度に引き続き、伊豆原先生に座長、廣島先生に副座長をお願いしたいと存じますので、両先生、どうぞよろしくをお願いいたします。それでは座長、会議の進行をよろしくをお願いいたします。

座 長： 会議に入らせていただきますが、始めに本日の議事録署名人を指名させていただきます。本日は、愛知県豊川警察署の小久保 浩委員と豊鉄タクシー株式会社の小川 健司委員にお願いいたします。では、次第に従って、会議を進めます。

報告事項（１）「平成２７年４月までの豊川市コミュニティバスの運行実績」について、事務局より説明・報告をお願いします。

事務局： それでは、報告事項（１）「平成２７年４月までの豊川市コミュニティバスの運行実績」について、説明します。「１－１ 豊川市コミュニティバスの利用者数の推移」について、中段の折れ線グラフでは、平成２４年度以降のコミュニティバスの利用者数の推移を示しています。平成２５年５月に豊川市民病院移転に伴う大幅な路線見直しを行った結果、利用者数は増加傾向にあり、平成２６年４月から平成２７年３月までの１２ヶ月間の利用者数を前年度と比較すると約５，７００人増加しています。なお、平成２３年１１月の運行開始から平成２７年４月までの４２ヶ月間の利用者総数は、約２６．５万人となっています。

次に「１－２ 路線別の月別利用者数の推移」について説明します。ここでは路線ごとの利用者の推移を年度別に示しています。中段の平成２６年度の前年度からの増減状況を見ると、基幹路線については全ての路線で増加しており、特に「豊川国府線」、「一宮線」では約１，１００人、「音羽線」では約１，３００人増加しています。一方、地域路線では「音羽地区地域路線」が約３００人、「御油地区地域路線」では約１，３００人増加しているものの、

他の地域路線では減少しています。引き続き、各地域協議会と更なる連携を図りながら、利用促進に努めていきたいと考えています。

続きまして、「1-3 平成26年度の収支率の実績と利用者1人あたりの負担額」について説明します。ここでは、「運賃等の収入」を「運行経費」で除した「収支率」を路線ごとに示しています。この数値が高いほど公費負担の割合が低く、効率的な運行ができていることを示します。なお、この数値につきましては消費税込みとなっています。「豊川市地域公共交通総合連携計画」に掲げられる収支率の中期目標値の15%に対して、基幹路線全体の収支率は11.35%となっており、中でも「千両三上線」は目標を達成しておりますが、その他の路線では目標値より低い状況です。また、地域路線全体では9.47%となっており、中でも「音羽地区地域路線」は中期目標値の15%に近い数値となっていますが、全ての地域路線で目標値より低くなっています。さらに、豊川市コミュニティバス全体では10.74%の収支率となっており、計画期間の中期目標値の15%に対して、4.26%低くなっています。最後に市の負担額に占める利用者一人あたりの金額については、全体としては995円となっております。今後も、引き続き皆様とともに計画に定められた目標の達成に向け、様々な利用促進策の実施、路線の見直しの検討を進めるなどにより改善を目指していきます。

以上で、報告事項(1)「平成27年4月までの豊川市コミュニティバスの運行実績」の説明を終わります。

座長： ありがとうございます。何かご意見、ご質問はございますか。

委員： 利用者数だけでなく、収支率の経年変化のデータはありますか。改善傾向にあるのでしょうか。

事務局： 資料2ページでは、平成26年度の実績値のみの掲載となっており、次回以降の資料には経年比較ができるように前年度の数値も載せていくことにします。平成25年度の基幹6路線の合計の収支率は、11.15%、地区地域路線の合計の収支率は、9.22%であり、市コミュニティバス全体の収支率は、10.53%でした。いずれも僅かではありますが平成26年度は改善傾向にあります。平成25年度と比較すると基幹路線は、0.20%の増、地区地域路線は、0.25%の増、全体では、0.21%の増となっています。

委員： 利用者1人当たりの負担額は、国庫補助金額を引いた額で算出していますが、国庫補助金額はその年によって交付金額が上下するので、参考にするのであれば単純に通常経費から運賃を引いた額を利用者数で割って、算出すると分かりやすいと思います。次回から掲載をお願いします。

座長： もう一つ欄を設けるなど、配慮し改善すると良いと思います。

事務局： 今後は、掲載していきます。

委員： 車体広告掲載収入について、車体広告の残りのスペースはどのくらいあるのでしょうか。資料2ページの金額は、掲載スペースが全て埋まっている状態の金額ですか。

座長： まだ広告をいただける余地があるのか、というご意見です。

事務局： 平成27年の6月から、今まで空きのあった路線の車体広告について、新たな広告主が現れ、広告を掲載しています。車体広告のスペースの空きとしては、一宮地区地域路線で2ヶ所あるのみで、他の路線については全てのスペースに広告が掲載されている状況です。

座長： 他によろしいでしょうか。特にないようですので、報告事項(2)「平成26年度決算書報

告」について、事務局より説明・報告をお願いします。

事務局： それでは報告事項（２）「平成２６年度決算書報告」について、説明させていただきます。

「２－１ 平成２６年度豊川市地域公共交通会議歳入歳出決算書及び決算監査報告書」について説明します。平成２７年３月末をもって、平成２６年度の豊川市地域公共交通会議が実施する事業が完了したことに伴い、平成２６年度豊川市地域公共交通会議の歳入歳出額が確定しましたので報告します。決算書、上段の歳入から順に主な事項について説明します。最初に１負担金及び補助金については、豊川市から予算額のとおり９６２，０００円が入金されています。次に２繰越金については、平成２５年度における豊川市地域公共交通会議の剰余金２０，０６０円が繰越されています。３の雑入は、預金利子等として１，６２９円の収入があり、歳入の合計は９８３，６８９円となります。次に歳出については、１事業費の負担金は、夏休み小学生５０円バス実行委員会への負担金の６９，０００円となります。次に２需用費については、利用促進イベントの景品や事務用消耗品として消耗品費３０９，７２１円、利用促進イベントポスターやバス停用運行経路図作成等の印刷製本費として４２８，７６０円、夏休み路線バス探検キャラバン時の配付用として食糧費９，６０１円を支出しています。次に３役務費については、消耗品費等の支払時における金融機関への振込手数料として７，７７６円、そして４雑費として、前年度繰越金２０，０６０円を市へ返戻しています。以上、歳出合計は９７２，０８８円となります。なお、歳入と歳出の差額１１，６０１円については、平成２７年度豊川市地域公共交通会議予算に繰越しを行った上で、市へ返戻する予定となっています。資料３ページ右側には、只今説明した内容について、平成２６年度の監事である渥美委員に監査いただき、監査報告書の写しを添付しております。

以上で、報告事項（２）「平成２６年度決算書報告」の説明を終わります。

座長： ありがとうございます。只今の説明・報告の中で、ご質問・ご意見などありましたらお願いします。無いようですので、ご確認いただいたということで進めさせていただきます。

続きまして、報告事項（３）「平成２７年度の協議会スケジュール」について、事務局より説明・報告をお願いします。

事務局： それでは報告事項（３）「平成２７年度の協議会スケジュール」について説明します。「３－１ 協議会スケジュール」では、今年度に本公共交通会議にて行う主な協議内容を示しています。今年度も引き続き「豊川市地域公共交通総合連携計画」に掲げられた目標の達成に向けて、利用促進活動や調査などの取り組みを進めてまいります。会議は、今回会議を含めて年４回の開催を予定しています。今年度に協議を進める主な事項は２点あります。１点目は豊川市コミュニティバスの路線の見直し、２点目は豊川市地域公共交通総合連携計画の見直しとなります。

豊川市コミュニティバスの路線見直しについて、前回会議までの経緯等を簡単に説明します。国府駅から豊川駅までの区間については、豊川国府線・音羽線・御津線のコミュニティバス３路線と豊鉄バス新豊線・豊川線が並走しており、運行本数等のサービス水準に偏りが生じています。これらの課題の対応として変更案のとおり、豊川市民病院から豊川駅前方面の市民病院より東側の区間についてコミュニティバスの運行本数を縮減し、豊鉄バス主体での運行とし、利用が多い豊川市民病院から国府駅、音羽地区、御津地区といった市民病院から西側の区間の運行本数の増加を目指していくという改善の方向性を前回会議にてまとめています。

次にゾーン制の見直し案については、現在、同じゾーンの移動であれば片道200円、ゾーンを跨いだ場合は300円となっています。特にニーズの高い市民病院は西ゾーンに位置しており、東ゾーンから利用する場合は300円となることから、ゾーン制運賃による運賃の差を緩和する必要があるものと考えております。そのため市民病院から市役所間の市の中心部に行く場合に東・西どちらのゾーンからでも同じ運賃で利用できるように、共通ゾーンというものを新設し、更なる利用促進を図っていきたいと考えています。また、路線体系の改善にあわせて豊鉄バス新豊線・豊川線が市内の運行を担う一体の路線として利便性を高めるために乗継による運賃負担を軽減する必要があるものと考えています。そのためこれらの課題への対応として、市内限定の豊鉄バスとコミュニティバスの共通1日フリー乗車券の通年運用を目指していきます。以上が、前回会議までにまとめた豊川市コミュニティバスの路線の見直しに係る改善の方向性となります。

今回の8月開催予定の第26回会議では、豊川市コミュニティバスの路線見直し、地域公共交通総合連携計画に替わる新たな計画である地域公共交通網形成計画の骨子の協議、バス利用実態調査・利用促進策の協議を行う予定です。12月開催予定の第27回会議では、豊川市コミュニティバスの路線見直し、形成計画素案の協議、バス利用実態調査並びに利用促進策の結果報告、そして国の補助に対するコミュニティバスの評価を行う予定となっています。3月開催予定の第28回会議では、路線見直しに係る運行計画のとりまとめ、地域公共交通網形成計画最終案の協議等を行う予定となっています。その後、平成28年度では年度当初に地域公共交通網形成計画の公表、そして10月に路線見直しによる運行開始を予定しています。

続いて「3-2 実施事業の内容」については、本年度に行う主な実施事業の内容を具体的に示しています。(1)「利用促進イベントや利用環境改善に向けた取り組みの実施」では施策として、夏休み小学生50円バスを実施します。これは夏休み期間中、小学生のバス運賃を50円とする利用促進イベントとなります。次に豊川市1日フリー乗車券の販売を昨年に引き続き実施します。こちらは秋に市内限定でコミュニティバスと豊鉄バス共通の1日乗り放題の乗車券を発行するものです。次に豊鉄バス乗車体験イベント（夏休み路線バス探検キャラバン）を実施します。こちらは夏休みに小学生以下とその保護者を対象にバス体験イベントを行うものです。最後に待合空間改善のため利用が多い本宮の湯バス停を第一候補として固定式のベンチを設置する予定となっています。以上、4つが本年度における主な利用促進や利用環境改善に向けた取り組みとなります。

次に(2)バス利用実態調査(OD調査)について説明します。今後の路線見直しの検討への活用並びに利用促進イベントの効果把握するため、バス利用実態調査を秋に予定しています。調査の内容としては、バス利用者の乗車したバス停と降車したバス停を調査する「OD調査」と言われる調査を昨年度に引き続き実施します。調査対象その他の詳細については資料4ページに記載していますが、次回会議で詳細を示し、協議をいただきたいと思います。

次に(3)路線見直しの検討については、昨年度に整理した豊川市コミュニティバス路線の改善の方向性を踏まえて、豊川国府線・音羽線・御津線の3路線の具体的な運行ルート・運行ダイヤ・運賃体系などの検討を行います。その後、接続する他の路線のダイヤの検討を進め、次年度1回目の会議までに全体の運行計画をとりまとめ、平成28年10月から見直しによる運行を目指していきます。

次に（４）地域公共交通網形成計画の策定についてですが、こちらについては後ほどの協議事項で説明しますが、将来にわたって持続可能な公共交通網の構築のため10カ年の計画である「地域公共交通総合連携計画」を改訂し、新たに法に位置づけられた「地域公共交通網形成計画」の策定を目指していきます。

以上で、報告事項「平成27年度の協議会スケジュール」について説明を終わります。

座長： ありがとうございます。只今の説明・報告の中で、ご質問・ご意見などありましたらお願いします。今年度中に地域公共交通網形成計画を作り上げたいという目標で、協議会のスケジュールが組んであるので様々な場面でこのような議論をしていただくことになると思います。豊川市は「地域公共交通総合連携計画」に基づいて展開し、当会議の委員に議論していただきながら評価を行い、改善の方向を見出しています。昨年11月に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が一部改正になり、「連携計画」から「形成計画」へと名称だけでなく中身も変化しました。特に地域のまちづくりや豊川稲荷などの豊川市の観光地、観光政策との連携を図るなどして、しっかりとした方向性を持った公共交通網の計画を作っていくという形に変わりました。1年間の4回の会議の中で地域の皆さんに議論していただきながら、「形成計画」を今年度中に立案していきたいと思います。

ご意見が無いようなので、スケジュールは確認いただいたということで進めさせていただきます。

続きまして、協議事項に入ります。協議事項（１）「基幹路線の運行計画の変更」について、事務局より説明・提案をお願いします。

事務局： それでは協議事項（１）「基幹路線の運行計画の変更」について説明します。「4-1 豊川国府線「横佐」バス停位置の変更」についてですが、豊川市幸町にある豊川国府線の国府駅方面のバス停について、バス停に隣接する土地において宅地造成工事が予定されておりバス停がその乗り入れの支障となるため、25メートル程、豊川駅前方面に移設します。変更はバス停の位置のみで、ダイヤや運行ルートの変更はありません。なお、事前に関連する地権者や公安委員会等の関係者とは調整し、内諾をいただいております。

以上で、協議事項（１）「基幹路線の運行計画の変更」について説明を終わりますが、今後はこのような運賃に影響しないバス停の移設等、国に事後での届出が認められている軽微な変更については、報告事項でのご報告とさせていただきたいと思いますので、今後の取り扱いも含めてご承認の程よろしくをお願いします。

座長： ありがとうございます。只今の説明・提案の中で、ご質問・ご意見などありましたらお願いします。無いようなので、ご承認いただいたということで進めさせていただきます。

続きまして、協議事項（２）「生活交通確保維持改善計画」について、事務局より説明・提案をお願いします。

事務局： 続きまして、協議事項（２）「生活交通確保維持計画」について説明します。コミュニティバスの一部路線は、国の補助メニューである「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」制度を活用して運行しています。そのため6月中に事業の目的・必要性や目標、運行内容などをまとめた「生活交通確保維持改善計画」を策定し、国土交通省中部運輸局に提出することが必要となります。今回、生活交通確保維持改善計画に記載する事項を資料6ページから9ページにまとめています。生活交通確保維持計画とは、地域公共交通の確保・維持・改善のために、協議会が地域の生活交通のニーズを把握し、地域の特性・実情に応じた移手段の

提供を図るための取り組みについてまとめた計画になります。今回示した計画は、平成23年3月に策定した「豊川市地域公共交通総合連携計画」の内容と平成25年5月の市民病院開院に伴う変更等の最新の運行内容を基に作成しました。

次に「2-2 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標と効果」、(1)「事業の目標」については、連携計画で定めた4つの基本方針と7つの基本目標、そして、これらの基本目標を具体化するための利用者数の目標等の4つの数値目標を設定しています。なお、資料の表中、赤枠で囲ってある部分については、昨年度から変更や時点修正があった事項となります。

次に「2-3 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者」は、平成27年5月の御津地区地域路線の運行内容の変更等の最新の状況を反映しており、市内の路線図、運行系統の概要、運賃体系を基にまとめています。

続きまして「2-4 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称」ですが、補助の対象となるのは豊川市の場合、豊鉄バスの新豊線・豊川線と接続する路線となります。基幹路線では豊川国府線・千両三上線・音羽線の市役所直通便、御津線の市役所直通便、そして、地域路線では、一宮地区地域路線が補助対象路線となります。なお、補助金の交付については、補助対象路線を運行する事業者に対して交付されますので、豊川国府線につきましては、豊鉄バス株式会社、その他の路線につきましては、豊鉄タクシー株式会社が補助対象事業者となります。

続きまして「2-5 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額」については、運行実績のキロ当たり経常費用額や経常収益額という数値を用いて、各路線の運行系統別に国庫補助額の算出をしています。資料9ページ表中の「確保維持事業に要する国庫補助額」の平成28年度の合計を見ていただくと、国庫補助額は、全体で3,091万円となりますが、国庫補助には上限が設定されているため、資料9ページ表中右下に示されているとおり、平成28年度の国庫補助額は1,621万6千円となる見込みです。なお、この国庫補助額に対する補助対象事業者ごとの金額については、それぞれの補助金額の割合を按分し算出しています。また、平成28年度から平均乗車人員が1.0人以下の運行系統については、国庫補助の対象外となりますので、状況によっては計画提出時と比較して補助金が少なくなる場合もあります。

「2-6 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要」以降の項目については定型的な事項であるため説明は省略します。以上、これらの内容を基に平成28年度事業分の生活交通確保維持改善計画を作成し、今月末までに中部運輸局に提出させていただきます。本計画の作成及び提出、提出後の変更・修正、また、手続につきましては、事務局に一任していただくことを含めて、ご承認の程よろしく申し上げます。

以上で、協議事項(2)「生活交通確保維持改善計画」について、説明を終わらせていただきます。

座長： ありがとうございます。只今の説明・提案の中で、ご質問・ご意見などありましたらお願いします。昨年までは、「生活交通ネットワーク計画」という名称でしたが、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の改正や国の事業制度の見直しに伴い「生活交通確保維持改善計画」という名称に変更されています。記載内容については昨年よりも少し充実したものにするという事で、これに各運行事業者の実績の資料を添付する必要がありますが、本日の会議資料には添付していません。様式として5月までの各運行事業者の実績を踏まえて記

述をしなければなりません。これは事務局と運行事業者で協議の上、数値を確定し中部運輸局愛知運輸支局の方へ提出させていただきます。これを踏まえた上で、協議をお願いします。

座長：何かご意見はございますか。

委員：今年度、補助制度の改定が行われています。一回あたりの乗車人員が1人を切るものについては国庫補助対象から外すという内容です。1人も乗らないバスは不必要であり、国の補助は行わないという考え方です。しかし生活にとっては大事な足なので、市の方で考えていただき、何とか運行してほしいと考えています。ただし、税金を使用して運行しているバスなので、なるべく有効に活用していただきたいと思います。委員の皆さんにおいては、是非地域に戻って、バスに乗車していただくように地域の方々へ伝えてほしいと思います。

座長：是非事務局の方も、補助制度に対する考え方も含めて、これからも努力していただきたいと思います。

委員：本計画で、コミュニティバスの国庫補助を申請していきますが、豊川市内を運行している豊鉄バスの新豊線・豊川線については6月16日に開催される愛知県バス対策協議会という会議で地域間幹線系統に位置づけられ、国庫補助金の申請していく予定です。

座長：豊鉄バスの新豊線と豊川線については、県の地域間幹線としてバス対策協議会で申請していただきますが、ここで、1つ運行事業者へお願いがあります。今議論した補助金は、直接運行事業者に交付されるため、運行事業者はいつ補助金が交付されたかの報告をしていただきたいと思います。

委員：機会を見つけて報告させていただきます。

座長：他に何かご意見はございますか。無いようなので、ご承認いただいたということで進めさせていただきます。

続きまして、協議事項(3)「豊川市地域公共交通総合連携計画の見直しについて」、事務局より説明・提案をお願いします。

事務局：それでは協議事項(3)「豊川市地域公共交通総合連携計画の見直しについて」説明します。「6-1 地域公共交通網形成計画の目的や定める事項」についてですが、本市では「豊川市地域公共交通総合連携計画」を平成23年3月に策定していますが、法改正により「地域公共交通網形成計画」という新しい計画が法律に位置づけられることになったため、現在の連携計画を見直し「地域公共交通網形成計画」への移行を目指していきます。ここからは新たな計画の目的や背景、そして新たに記載が必要となる事項等について順に説明します。まず、目的についてです。本市では公共交通の利用者の減少並びに採算性の悪化等への対応として「豊川市地域公共交通総合連携計画」を策定し、合併後の市域に対応したバス路線の一体化と利便性向上に取り組んできており、平成23年11月のコミュニティバスの運行開始以後、今年度で連携計画における10カ年の計画期間の5年目を迎えるものの、これまでの実績を踏まえた上で評価改善すべきことが残されている状況にあります。そのような状況の中、国は平成25年に交通施策に関する基本理念を示した「交通政策基本法」を制定し、関係者相互の連携と協働の下、まちづくりや観光振興等の観点から交通に関する施策を推進することなどを示しています。平成26年には「地域公共交通の活性化および再生に関する法律」が改正され、地方公共団体が中心となってまちづくりとの連携を含めた面的な公共交通ネットワークの再構築といった新たな課題への対応が求められています。さらには、市のま

ちづくりの最上位計画である「総合計画」が平成28年度に改訂される予定であること、そして、本市のまちづくりの基本方針を定めた「都市計画マスタープラン」も中間見直しが予定されています。そのため、これらの上位計画の考え方を踏まえた交通施策を推進することも必要となっています。以上、これらの点を踏まえ将来に渡って持続可能な公共交通網の実現を目指すため、今ある連携計画に新たに必要となる事項を加え、移行という形での地域公共交通網形成計画の策定を目指します。次に(2)形成計画に定める事項について説明します。形成計画に定める事項は①～⑧に記載されており、赤字が連携計画から新たに追加すべき事項となります。⑤達成の状況の評価に関する事項、⑧都市機能の増進に必要な施設の立地の適性化に関する施策との連携、その他持続可能な地域公共交通網の形成に際し、配慮すべき事項、この2点が新たに加える必要がある基本的な事項となります。今後、これらの点を新たに加えるとともに、記載済の事項については、検証を行った上で必要に応じて見直しを行いながら今年度中に形成計画の策定を目指していきます。

続きまして「6-2 事業スケジュール」についてですが、形成計画策定のスケジュール及びバス路線の見直しに関する年間スケジュールを示させていただいております。次回、8月開催予定の第26回会議にて形成計画の骨子をお示しし、12月頃開催予定の第27回会議にて素案を提示の予定です。そして平成28年3月頃開催予定の第28回会議において最終的な協議をいただき、平成28年度当初の公表を目指します。また、路線見直しに関するスケジュール表を示していますが、形成計画の策定にあたり、路線見直しの状況を適宜、反映させていくことを考えています。なお、形成計画の策定にあたっては、鉄道事業者からのご意見も必要と考えていますので、必要に応じて鉄道事業者にも公共交通会議への参画をお願いしていきたいと考えています。

以上で、協議事項(3)「豊川市地域公共交通総合連携計画の見直しについて」の説明を終わります。

座長： ありがとうございます。只今の説明・提案の中で、ご質問・ご意見などありましたらお願いします。

座長： 何かご意見はありますか。

委員： これまでは連携計画ということで交通計画を策定し、それに基づいてコミュニティバス、路線バスの運行をしてきました。交通政策基本法が平成25年に施行され、去年は地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正されています。この2つの法律の施行・改正にあたって、まずは日本の各地域で人口減少や高齢化が急速に進む中で、まちづくりのあり方と交通計画をリンクさせて考えていただく必要があるだろうという事で、都市機能に関する法律も一緒に改正されています。その中でネットワークとして形成計画を作っていただくという姿勢です。非常に長いスパンで考えていかなければいけないので、先を見越した交通計画を作ってほしいと思います。特に今回はまちづくりや観光振興を念頭に置き、このまちに住む方だけではなく、訪れる方が利用しやすいような工夫も必要です。また、それぞれの役割が重要であるため、バス事業者、自治体、県、国、地域住民の方、それぞれの役割をしっかりと明記し、地域で公共交通を盛り上げていくような物にしていきたいと思います。

座長： 法律の趣旨等についてご説明いただきました。これを踏まえてこの会議では豊川市の公共交通をどのように上手く仕組んでいくのか、もう一度、整備し直すことを考えていきたいと思っています。

委員： 御津地区の山間部の方は人口減少が進み、さらに市街化調整区域の為、住宅が増えず高齢化と少子化が進んでいるのが現状です。コミュニティバスに関しては、市を跨いで運行するのは難しいのでしょうか。例えば道路は蒲郡市の方に繋がっているのに、コミュニティバスは豊川市内（御津地区内）で止まってしまう為、どうしても利用が減ってしまうように感じています。観光目的という位置づけがあるのであれば、ラグーナ蒲郡にも繋がると観光の面でも利用しやすいと思いますが、市を跨ぐことは可能でしょうか。これからは、市外との接続も必要になるのではないのでしょうか。

座長： ごもったもな意見と捉えます。しかし市町村合併してからはいろいろ難しく、まずは市域の中だけはいきましょうというのが連携計画です。ただ、市域の境界を越えて運行している例は全国的にも数多くあります。例えば御津地区の西の方は蒲郡市に生活圏が広がっているという事も有り得ると思いますし、逆に言えば蒲郡市のバスが豊川市内へ入ってきてもいいのではないかと思います。そういう事を、市を超えてお互いに話し合う場を作る必要があります。それは地域の広域性や特性を踏まえて、考えていかなければなりません。豊川市の場合には名鉄やJRがあり、駅もいくつもあるので地域や他のまちとどう連携していくのかを考えることも必要です。例えば、安城市は豊田市と岡崎市に隣接していますが、昨年11月から岡崎市にある駅を経由して安城市のコミュニティバスが運行されており、大変利便性が高まったと聞いています。このように今回形成計画を作っていく上で、路線のネットワークの組み方を整備し直すことは重要であると思います。

委員： 新しい市コミュニティバスの時刻表をいただき、以前のものと比較したところ随分分かりやすくなっており、色々な工夫がされていると感じられます。地域のイベントで高齢者とともに三世代交流をする際に、時刻表の存在を認識しているか出席者に尋ねると、ほとんどの方が知らないと回答されます。そのためお知らせすると、「これがあるならば、自分でも市民病院に行ってみたい」という方もみえて関心を集めました。また、子どもたちもバスが走っている事を知らない場合も多くあります。少しずつ地域の皆さんに知らせていけたらいいと思います。私達の町内では老人会でバスの乗り方教室を行いました。このような取り組みは大変効果的であると思います。

座長： 事務局の方でもそういうことを含めて、PRしてほしいと思います。

委員： 私達の年齢は、運転免許証を持っていない女性が大半です。ご主人が持っているので必要ないという理由で過ごしている方が多いですが、ご主人が運転できなくなった場合、路線バスは大変重要です。先ほどのご意見のように乗り方が分からない方が多くいます。電車は駅へ行けば分かりますが、バス停がどこにあるのか分からず、バスに乗るといった感覚をあまり持っていないようです。さらに、本年度、利用促進の取り組みとして、待合空間改善のためにベンチを1ヶ所設置予定とありますが、老人にとっては立ってバスを待ってられない方も多いので待合空間の改善について、もっと考えてもらえるとありがたいです。

事務局： 待合空間の改善について、本年度はバス停に常設のベンチを1ヶ所設置予定ですが、連携計画に基づき、まずは利用者の多いバス停、乗継があるバス停、結節点になるバス停から改善をしていきたいと考えています。昨年度は名鉄国府駅、豊川市総合体育館の前の2ヶ所のバス停にベンチを設置しました。本年度は高齢者の利用が非常に多い、本宮の湯のバス停にベンチの設置を予定していますが、予算も伴うことなので、今後も引き続き、財政当局へ予算確保に関して粘り強く折衝していきたいと考えています。ただし、コミュニティバスの場

合は狭い道にバス停を設置しているところもあり、市内の300ヶ所程あるバス停全てにベンチを設置することは物理的に不可能な場所もあり、非常に難しいことをご理解いただきたいと思います。どこに設置すれば利用者がより便利になるのかという事も考えて、優先順位等をつけながら整備をしていきたいと考えています。

座長： 愛知県の中には市民団体等がバス停に椅子を設置している所もあります。行政だけが椅子を設置しなければならない訳ではありません。平成25年エコモビ推進表彰大賞の武豊町コミュニティバス友の会は、皆でバス停の椅子を作ることから始まりました。このような会の活動には、もちろん行政からのサポートも必要ですが、お金だけではなく人の力も重要です。先ほどのご意見のように、地域の皆さんと一緒に公共交通を盛り上げられるようになると絆が深まります。予算の関係で困難な部分も地域の方のボランティア等でサポートし合うなどの仕組みを作っていくと良いものができると思います。一般的には4月、5月に老人会やシニアクラブの総会等があるので、そのような場面でPRパンフレットや時刻表を配布したり、バスの路線やバス停の紹介を行ったりするなどして、お年寄りにバスに興味を持っていただくチャンスを作ると良いと思います。

委員： 色々な意見を皆さんから出していただき、それぞれの役割を皆さんで作って、それを形成計画の中に書き込んで、皆で取り組んでいくという位置づけをしていただきたいと思います。本日配布された時刻表はコミュニティバスのものしかないのですが、ここに市内を運行している豊鉄バスの時刻表も掲載されていると良いと感じます。形成計画はコミュニティバスだけでなく、路線バスや鉄道、タクシーも含め皆で活用しながら便利な交通を作ろうというもので、時刻表の工夫の検討も必要ではないかと感じました。

座長： 皆で知恵を出すことは基本なので、地域の皆さんも色々な所で意見を出しあっていただきたいと思います。

他によろしいでしょうか。無いようでしたら、協議事項(3)「豊川市地域公共交通総合連携計画の見直しについて」は、事務局の提案どおりといたします。

続きまして、協議事項(4)「利用促進に関する取り組み」について、事務局より説明・提案をお願いします。

事務局： それでは協議事項(4)「利用促進に関する取り組み」について説明させていただきます。「7-1 今年度の利用促進に関する取り組み」については、3つの利用促進の取り組みについて、それぞれ実施スケジュールを示しています。これらの取り組みについては、豊鉄バスさん、豊鉄タクシーさんの協力をいただきながら実施するものです。

続きまして、「7-2 夏休み小学生50円バス実施内容(案)」について説明します。豊川市では、夏休み期間中、小学生運賃を一律50円とし、子どもの市内バス路線の利用促進や親子でのバス利用のきっかけをつくることを目的に、「夏休み小学生50円バス」の実施を予定しています。この取り組みは、小学生を対象に実施し、夏休み期間中の平成27年7月18日～8月31日までの期間で行います。小学生の運賃が50円となるバス路線は、豊鉄バスの新豊線・豊川線の2路線と豊川市コミュニティバスの10路線、合計12路線です。また、このイベントは昨年度も実施しており、豊川市だけでなく東三河地域の市町村が連携して行う予定となっています。対象となるのは高速バスを除いた東三河地域の全バス路線となります。次に運賃の考え方については、現在、市内バス路線の運賃体系は、豊川体育館前バス停並びにゆうあいの里バス停を境に東西2つのゾーンに分けて、ゾーンを超えて乗車し

た場合は、運賃が加算されるゾーン制運賃を採用していますが、夏休み期間中における小学生の運賃につきましては、豊鉄バスの新豊線・豊川線とコミュニティバス全路線を1つのゾーンとして、片道運賃50円均一となりますので、地域路線と基幹路線と豊鉄バスの新豊線・豊川線を乗り継いで利用する場合でも、小学生運賃は片道50円、往復で運賃は100円となります。運賃の支払い方法は、最初に乗車したバスで運賃50円を支払い、乗り継ぐ場合には、乗継券を受け取って次のバスに乗車することになります。なお、本事業の実施並びに後ほど説明させていただきます共通1日フリー乗車券の発行については、関連する音羽・御津・一宮・御油地区地域路線の各地域協議会の皆様にもご了解をいただいております。資料12ページの、PR方法、乗継可能なバス停と路線名の一覧表は、後ほどご確認ください。なお、小学生以外の利用者の運賃につきましては、現在のゾーン制運賃体系での運賃となります。

次に「7-3 豊川市1日フリー乗車券実施内容(案)」について説明します。この取り組みは、今までバスを利用したことがない市民を主なターゲットとして、市内限定で高速バス路線を除く市内バス路線の1日乗り放題の乗車券を発行し、利用促進を図るものです。対象となる路線は、豊鉄バスの新豊線・豊川線の「正岡」から「東上」バス停間、及び豊川市コミュニティバス10路線、合計12路線です。実施時期については、年を通じて最もバスの利用者数が多く、また秋祭り等のイベントも多く開催される10月1日から11月30日までの2ヶ月間を予定しています。販売金額は、昨年度は大人500円、小人250円でしたが、次回会議で協議をお願いしたいと考えています。最後に発売箇所については、バス車内、市役所及び各支所並びに豊橋駅にあります豊鉄バスのバスセンターを予定しています。今後はモデルコースの提示や特典付与の検討、告知ポスター原案の作成等、更なる魅力の向上を目指して関係部署との調整を行いながら作業を進めていきます。

続きまして「7-4 夏休み路線バス探検キャラバン ～バスの秘密をさぐろう～ 実施内容(案)」について説明します。この取り組みについては、小学生以下とその保護者を対象にバスへの関心を高めることにより長期的な視点での利用促進を図ることを目的として、バスと触れ合う機会を設ける体験イベントとなります。実施時期については夏休み期間中である8月8日(土曜日)を予定しており、豊鉄バスさんのご協力の下、豊橋市植田町にあります豊鉄バスさんの植田車庫にて行い、バスに乗ったままでの洗車機体験、整備工場の見学など普段では体験することができない路線バスの秘密を探るイベントとなります。参加料は無料、対象は小学生以下とその保護者で、定員は60人程度で予定しており、広報とよかわ、ホームページ等でPRを行います。

最後に資料には記載しておりませんが、介護高齢課所管の事業として、高齢者の外出を支援するため、平成27年6月1日より高齢者交通料金助成事業として、豊鉄バス・豊川市コミュニティバス共通回数券の交付が開始されています。対象者は、市内在住の70歳以上の市民税非課税の方で、交付金額としては1,000円分となっています。今後は所管課と情報を共有しながら、利用状況の推移を見守っていく必要があるものと考えています。

以上で、協議事項(4)「利用促進に関する取り組み」について説明を終わりますが、取り組みに関する対象路線や実施期間等お示しした基本的な事項に基づく利用促進策の実施及びPR作業や関係部署との調整・手続きについて事務局に一任していただくことを含め、ご承認の程よろしく申し上げます。

座 長： 何かご意見はございますか。

委 員： 夏休み路線バス探検キャラバンについて、去年は定員の倍の申込があり、半分の方をお受けできなかったと記憶しています。2回行うことはできるのでしょうか。公共交通会議の決算書を見ると、ポスターなどの印刷物は2回分載せれば余分な費用はかからないと思います。様々な経費を削るなどして、複数回実施できれば子どもたちがバスに興味を持つとても良い機会になると思いますがいかがでしょうか。

事務局： 昨年度の募集は60名で行い、実際の申込は113名でした。事務局にて抽選を行い、予定を少し上回る65名の方に参加いただきました。実施時に参加者へアンケート調査を行ったところ、非常に良かったという意見を多くいただきました。本事業は公共交通会議の予算にて実施しています。暑い時期なので参加者にお茶などを配布するのに約1万円、豊鉄バスの全面的な協力をいただいておりますが、会場まで送迎するバス2台の借上代、バスとの綱引き体験をする際に使用する綱のレンタル代などを含めて約10万円かかるのが実情であり、2回行うことは予算的には厳しい状況です。豊鉄バスの担当の方に工場を案内していただいたり、バスに乗車したままバスの洗車機の中を通ったりなどの体験もできます。昨年応募して抽選にはずれて参加できなかった方が、今年も応募していただけた場合は、抽選の際に事務局の方でも配慮をしたいと思います。

委 員： 往復の送迎は豊川市のバスは使用できないのでしょうか。また、開催日は夏休みで子どもは小学生50円バスで近くまで行けるため、事業を1日増やすことができればよいと思います。

事務局： 先にも述べましたが、会場までの足として、豊鉄バスに2台のバスを用意していただいております。このバスは、観光バスではなく、普段路線バスとして走行している車両を使用しています。路線バス車両を使用する理由としては、バスの中で実際にバスの乗り方を実践することも行っているためです。市のバスは、大型バスではなく中型バスとマイクロバスであるため60人が乗車することは難しい状況です。

委 員： 8月なので親は当然お茶等を子どもに持参させると思います。やめるものはやめて、個人で負担できる部分は個人で負担していただき、バスの体験などできない部分を協力していただくのはどうでしょうか。

座 長： 予算の関係上、実施回数を増やすのは難しい部分もありますが、豊鉄バスにも相談した上で可能であれば検討していただきたいと思います。豊鉄バスの事情や準備、様々な裏方での仕事もあると思うので事務局の方で豊鉄バスと協議・調整をしてください。

1つ確認ですが、夏休み小学生50円バスについては、東三河地域全体で行うので分かりにくい部分もあると思います。例えば豊川市から伊良湖岬までは50円では行けない、市内は50円だが市を跨ぐとさらに50円ずつ必要になると解釈してよいですか。

事務局： 市内はいくら乗り継いでも片道50円です。豊川市内から伊良湖へ行く場合、豊鉄バスの新豊線を利用して豊橋駅前まで行くとして、豊橋駅前までは50円、豊橋駅前から伊良湖の方まで乗り継ぐとさらに50円かかるように、乗換ごとに50円が必要となります。

座 長： 是非、子どもたちにPRしてほしいと思います。小学校を通じても取り組みはあるのでしょうか。

事務局： 先日、教育委員会の学校教育課・定例校長会においても周知を依頼しました。遅くとも7月の中旬にはチラシができあがるので、小学校を通じて児童1人に1枚ずつチラシを配布す

る予定です。

座 長： 今後も是非、楽しいイベントや取り組みなどをご提案していただきたいと思います。中身については詰めなければならないので事務局の方に一任していただいたということで、ご承認していただいたということによろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

座 長： ありがとうございます。その他ですが、なにかご発言はございますか。

委 員： 愛知県交通対策課が実施しているエコモビ推進表彰について、紹介させていただきます。「エコモビ」とは環境のエコ、移動のモビリティ、生活のライフを繋げた造語です。車、公共交通、自転車、徒歩などを賢く使い分けて環境にやさしい交通行動をとるライフスタイルのことを愛知県ではエコモビリティライフ（エコモビ）と呼んでいます。愛知県ではこのエコモビを推進するために推進協議会を中心に活動しており、協議会では現在エコモビ推進表彰の候補、団体の募集を行っています。過去にはコミュニティバスの利用促進に取り組んでいる団体やエコ通勤を推進している会社、自転車通勤の推進を行っている団体が大賞を受賞しています。このような団体が皆さんの身近にありましたら、是非積極的にご応募・ご協力いただきたいと思います。

座 長： 他になれば、事務局より追加の連絡などはございますか。

事務局： 次回の第26回会議は、8月12日（水曜日）の午後1時30分から当会場で開催させていただきます。詳細は時期を追って事務局よりご案内させていただきます。

座 長： 以上で、第25回豊川市地域公共交通会議を閉会とします。

(以 上)